

心豊かな「すてきさん」づくり ～ えがお・げんき・あいさつ～
かんがえ、やってみる子 いたわり、助け合う子 せいっぱいがんばる子 いきいきと元気な子



いじめ根絶を願うピンク
シャツに職員が身に
つけたピンク色のパッチ

開成町立開成幼稚園

たいよう通信

第11号

発行日：令和8年2月25日（水）

発行者：杉山 孝史

季節の移ろいを感じながら

暦の上では春を迎え、日差しのぬくもりに心が和む日も増えてきました。今年度も残り1か月となり、子どもたちの姿には一年間の成長がしっかりと感じられます。

そのような中、2月8日（日）には関東地方に強い寒気が流れ込み、足柄平野も大雪となりました。翌9日



（月）は園児の安全を最優先に考え急ぎ休園といたしました。ご家庭の皆さまには突然のお願いにもかかわらずご協力いただき、ありがとうございました。自然の厳しさを感じさせる出来事でしたが、子どもたちにとっては季節の変化を知る貴重な経験にもなったことでしょう。

年度末までの残りの日々も、一人一人が安心して過ごせる環境づくりに努めてまいります。引き続き皆さまのご支援よろしくお願ひいたします。

お兄さん・お姉さんと遊んだよ

吉田島高校生活科学科2年生11名が2月13日（金）、預かり保育・ぐるんぱクラブを訪れ39名の園児と交流しました。高校生は絵本の読み聞かせや折り紙（写真）、鬼ごっこなどで園児と触れ合いました。最初は遠慮がちだった園児も、次第に自分から話しかけたり遊びに誘ったりするようになりました。ゆうぎ室で一緒におやつを食べる頃にはすっ



かり打ち解けていました。今回の交流を通して、高校生は子ども一人一人に寄り添う大切さや保育のやりがいを感じたようです。別れ際には名残惜しそうに手を振り合っていました。

また、2月20日（金）には開成小学校6年1組の児童が年少組を訪れ、総合学習「開成町をよくしよう」の一環として交流しました。こちらも最初は互いに緊張していましたが、お絵描きや玉入れ、糸電話（写真）などで触れ合うことで次第に笑顔が広がりました。ある小学生は「すごくかわかった」と感想を話していました。手作りのプレゼントをもらった園児たちはとても嬉しそうでした。どちらの交流も春の日差しのように心温まる時間となりました。



町長さん ようこそ開成幼稚園へ



開成町の山神町長さんは2月24日（火）、開成幼稚園を訪れ、年長児2月誕生会を見学されました。（写真）各クラスの出し物や、うたなまさん（年長保護者有志）の

合唱に、町長さんは笑顔で拍手を送られていました。その後は年長さくら組の子どもたちと一緒に和やかな雰囲気の中で給食を楽しみました。

お帰りの際、ある子が「どんな仕事をしていますか？」と尋ねると、町長さんは「みんなが楽しく生活できるように…」と、子どもたちにも分かりやすい言葉で丁寧に答えてくださいました。「心が洗われました」と感想を述べられ、園を後にされました。

町長さん、またぜひ幼稚園へお越しください。子どもたちとともにお待ちしております。

園づくりを支える委員さんの声

第3回学校運営協議会が2月10日（火）に開かれ、保護者アンケートや教員の自己評価の結果を示しながら、園の様子を説明しました。



委員の皆さまからは、預かり保育や新たに始まる子育て支援事業が保護者同士のつながりを広げることへの期待、PTA活動の魅力をどう伝えるかといったご意見をいただきました。さらに、幼児期の経験がその後の成長に大きく影響すること、開成幼稚園では自分で選び決める体験を大切に、それが自己肯定感につながっているという励ましのお声も寄せられました。いただいたご意見を今後の園づくりに生かしてまいります。皆さま、一年間ありがとうございました。

PTA 活動お疲れさまでした

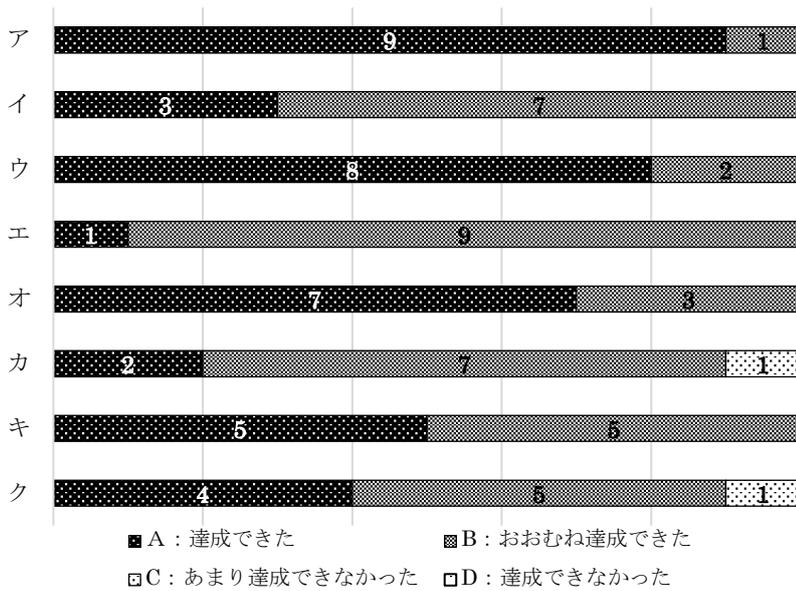


今年度最後の第10回PTA運営委員会は2月2日（月）に開かれ、冒頭で天野会長さんから「来年度に向けて準備を進め、次の委員さんが気持ちよくスタートできるように

しましょう」との挨拶がありました。会議では、今年度の良かった点や改善点、役員選出のルール確認、運営委員会の開催回数や時間帯などについて話し合われました。PTA本部役員（写真）と各常置委員の皆さま、一年間ありがとうございました。

今年度の保育を振り返って ～ 教員が自分の指導を評価 ～

教師の構え・指導の重点に関する自己評価結果 (人)



- ア 喜怒哀楽などの表情（表現力）豊かな教師となるよう努めた。
- イ 自らの保育を振り返り、成果と課題を明らかにし次に生かした。
- ウ 挨拶や感謝の気持ちを伝えるなど、子ども、保護者や地域の方、職員とのコミュニケーションを大切にしました。
- エ 子どもの実態を把握し、保育に見通しを持って課題解決に努めた。
- オ 子どもの内面を理解し、寄り添い、信頼関係を築くように努めた。
- カ 園内外の環境整備や美化に努め、子どもが落ち着いて生活できるようにした。
- キ 温かみを感じ、安心して楽しく生活できる保育環境づくりに努めた。
- ク 自らの長所や特技を生かし、子どもの遊びが広がったり深まったりするような環境作りや援助の工夫に努めた。

開成幼稚園では、より良い園づくりを目指し、日頃からさまざまな環境整備に取り組んでいます。また、教員は研究会や研修会を通して指導力の向上に努めています。その一環として、今年度も4月初めに教員一人ひとりが自己目標を設定し、年度途中と年度末に達成度を振り返り、環境改善に生かしてきました。

このグラフは、今年度末の2月に実施した自己評価の結果の一部になります。評価対象者は、教頭、園務主任、預かり保育担当教員、学級担任の計10名です。

評価結果ですが、すべての項目において、A「達成できた」B「おおむね達成できた」の合計人数が9人以上という結果になりました。中でも、アとウの達成度が高くなっています。一方、エとカについては、A「達成できた」とした人数が少なくなっています。

今回の自己評価や保護者アンケートの結果、学校運営協議会の皆さまのご意見などをもとに、引き続き保育環境の充実を目指してまいります。



☆ひだまり

『すてきさん』が育つ場所

▼近頃、幼児教育を取り巻く環境は大きく変わり、

「幼児教育の質の向上」が国全体のテーマとなっています。次期幼稚園教育要領や保育所保育指針の改訂に向けた議論も進み、幼児期の育ちを小学校へどのようにつないでいくか、そして誰もが安心して過ごせる環境づくりや子どもの幸せ（ウェルビーイング）をどう支えていくかが、これまで以上に重視されるようになりました。幼児期は、今後の人生を支える大切な土台が育つ時期です。すべての子どもが安心してのびのびと過ごせる環境を整えることが、今、社会全体から求められています。

▼こうした流れを受け、本園では今年度も教育目標を「心豊かな『すてきさん』づくり～えがお・げんき・あいさつ～」としました。「えがお」は嬉しさや幸せの象徴、「げんき」は心身の健やかさ、「あいさつ」は人とつながる第一歩です。子どもたちが日々の生活の中で自分らしさを発揮し、仲間と関わりながら育ち合う姿を大切にしたいという願いを込めました。

▼教育目標の実現に向けて、今年度の園内研究テーマを「幼児が共に育ち合うための環境構成や援助の工夫」としました。当初は※「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の一つに焦点を当てる予定でしたが、子どもの育ちの一つの側面だけでは語りきれません。そこで特定の姿に絞らず、子どもたちの育ち全体を丁寧に見取りながら研究を深めてきました。研究では「みんなで学び合うこと」「子どもの姿から学び続けること」「日々の保育に生かすこと」を大切に、研究保育やエピソード記録を通して語り合い、学びを積み重ねてきました。

▼作家・井上ひさしさんは、「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく、おもしろいことをまじめに、まじめなことをゆかいに、そしてゆかいなことはあくまでゆかいに」と語っています。この言葉は、幼児教育に携わる私たちの姿勢そのものだと感じます。子どもたちが夢中になって遊び、仲間と関わる時間を保育者の援助によってより豊かにしていくこと。その積み重ねが、子どもたちの未来へとつながる力になっていくのだと感じています。これからも、子どもたちの毎日の中にある小さな成長を、皆さんと一緒に見守っていかれたらと思います。

※「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧数量や図形・文字への関心 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現

